

7 広汎性発達障害児における尿失禁に対し漢方を使用した2例

東京品川病院 泌尿器科¹⁾、東京小児療育病院泌尿器科²⁾

青木 九里^{1) 2)}、田中 裕貴¹⁾

【はじめに】

以前、自閉症・広汎性発達障害児の昼夜遺尿症が抑肝散、大柴胡湯で軽快した7例を発表した。しかし、これら漢方薬や抗コリン剤で効果がない場合、漫然と投与せざるをえず、対応に苦慮していた。今回、同疾患に対し桂枝加芍薬湯+四物湯を処方し遺尿症が著効した2症例を経験したため報告する。

【症例】

症例1は7歳女児。昼間遺尿症は小学生になり軽快したが夜尿症は3ヶ月に1回成功する程度であった。外来受診時にアイマスク、ヘッドホンをしており外部との接触を遮断していた。自閉症を認めたことから抑肝散を処方。夜尿症は週1、2回成功するようになったが、昼間の失禁は軽度認めていた。1年後には夜尿症はほぼ改善したが、昼間の尿失禁は軽度続いており、学校も不登校。対人恐怖症もあり、またトイレが怖くてトイレに行くことができないため、尿失禁をしていると推測された。桂枝加芍薬湯+四物湯処方へ変更したところ、1ヶ月目より昼間の尿失禁軽快傾向、半年後には昼夜遺尿症が改善、周辺症状も軽快したため、漢方治療を中止した。

症例2は5歳男児。広汎性発達障害、被虐待児。小児科でアトモキセチン、リスペリドンを処方されていた。夜尿症を主訴に来院。オキシブチニンにて夜尿症は一時改善。1年後夜尿症再発し同薬に効果を認めず、抑肝散を追加。月1回程度の夜尿症となった。男性恐怖症があり、3年目の春に学校担任が男性に変わったことから夜尿症悪化。抑肝散から大柴胡湯へ変更するも改善せず、4年後、学校担任が女性となり週1回の夜尿症となった。5年後2月に寒冷によるストレスから夜尿症悪化し、ソリフェナシン2.5mg+大柴胡湯へ変更し、軽快。同年12月学校でのいじめが原因と思われる昼間頻尿が出現。ソリフェナシン2.5mg+桂枝加芍薬湯+四物湯を処方。6年目3月夜尿症改善、頻尿軽快傾向。同年9月ソリフェナシン中止し、桂枝加芍薬湯+四物湯を1日1回へ減量した。同年11月いらいら感再燃。12月小児科よりアトモキセチン、リスペリドン増量、泌尿器科では桂枝加芍薬湯+四物湯1日2回へ増量するも本人内服拒否。7年目2月学校休みがちとなり小児科よりさらにグアンフェシン開始し、いらいら感は軽快、漢方も内服できるようになった。同年4月中学校へ入学。夜尿症、頻尿改善。10月本人より漢方続行の希望続あり、現在服用中である。

【考察および結語】

自閉症・広汎性発達障害の精神病理には過敏症やタイムスリップ現象がある。この現象は本疾患における独自の意識のあり方に関連した記憶の病理現象で、トラウマ性のフラッシュバック現象とほぼ同一である。四物湯の参考症状に自律神経失調症を伴うとの記載があり、桂枝加芍薬湯は消化器系の効果がセロトニン代謝に影響し精神的な効果となっている可能性がある。過敏症、タイムスリップ現象による昼夜遺尿症と考えられた場合、桂枝加芍薬湯+四物湯も選択肢の一つとして考えられる。